

卓越大学院プログラム 事後評価結果

機関名	東京海洋大学	整理番号	1907
プログラム名称	海洋産業AIプロフェッショナル育成卓越大学院プログラム		
プログラム責任者	竹縄 知之	プログラムコーディネーター	舞田 正志

卓越大学院プログラム委員会における評価

〔総括評価〕

B：概ね計画に沿った取組が行われ、一部で十分な成果がまだ得られていない点もあるが、本事業の目的をある程度は達成できたと評価できる。

〔コメント〕

卓越した学位プログラム、「知のプロフェッショナル」を養成する体制等の構築については、プログラム後半では、研究及びキャリア支援を包括するマルチメンター制度を導入し、博士後期課程進学モチベーションを上げ、学生の成長につながるプログラムが実現しつつある点は評価できる。しかし、志願者数の伸び悩みや一定の離脱者等に伴う充足率の低迷、学生及び海洋AI関連の教員への経費支援、特別研究員の採択等は未だ十分でなく、論文発表や英語による授業実施、全プログラム生を対象とした研究交流の機会設定等、より高いKPIを掲げ、今後の目標を確実に達成するための運営体制が求められる。

修了者の成長については、これまで修了者として3名（うち社会人博士2名）を輩出し、論文賞や研究発表賞等を受賞し、海洋関連のAIを含むDX研究が認められつつある点については評価できる。しかし、定員15名とするプログラムの目標には未達であり、海洋AIに関する多様な領域で求められる修了者の成長と活躍については、令和8年度以降も修了者の動向に着目することで、教育効果の実現を期待する。なお、学長のリーダーシップに加え、プログラム後半において、プログラム責任者、コーディネーターの異動もあり、修了者数の増加の兆しが見えてきている。

キャリアパスの構築については、海洋AIマッチングWeekにより、コンソーシアム機関の企業ニーズと学生シーズとの丁寧なマッチングを行い、特に博士後期課程学生のマッチング率は毎年100%であり、有給のレジデントシップも機能していることは高く評価できる。一方で、修了者数の少なさから、企業へのキャリアパスも含めたロールモデルの提供は難しく、今後は多様なロールモデルの育成に向けて、キャリアプランの設定と支援等、大学のたゆまぬ努力が求められる。

大学院全体への波及効果及び事業の継続・発展については、学長のリーダーシップのもと、海洋AIコアコース履修生数の増加等、学生の認知も高まり、海洋AI・データサイエンス学位プログラムが設置され、定着発展がみられつつある。全学的な教育の司令塔組織として「総合教育推進機構」の設置を予定しており、運営体制の強化が期待される。また、補助期間終了後の資金計画では学内資産の安定した運用が計画されている。日本の海洋海事産業にとって、本プログラムが推進する人材育成は大変重要であり、今後は、大学院全体として海洋AIを含むDX研究と人材育成の発展に向け、より効率的な教育体制や経費の見直しを行うことが必要である。また、学生及びAI関連教員への支援を継続し、地球規模での修了者の活躍が広がることにより、我が国が誇る海洋環境の特長を生かした唯一無二の大学として、海洋AIにおける研究教育の発展が強く望まれる。